

本日はお忙しい中、ご来場を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、CANTUS ANIMAEは、この先のナンバリング演奏会について『祈りのかたち』というタイトルでシリーズ化いたします。本日はその第1回、「皆川達夫先生追悼演奏会」です。皆川達夫先生のご功績については申し上げるまでもありませんが、私自身の音楽人生も皆川先生との出会いで激変いたしました。皆川先生からご教授いただいたことが、今の私の音楽活動の原点です。

ここで、私事ではありますが、皆川先生への追悼、感謝の意味を込めて、皆川先生と私の関わりについて少し触れさせていたただきたく存じます。

私が初めて皆川先生を知ったのは、合唱指揮を始めたばかりの高校1年生の時でした。NHK-FMの合唱番組の中で皆川先生が「ルネサンスポリフォニーはお習字で言えば楷書です。ですから合唱を志す方は、まず合唱音楽の源であるグレゴリオ聖歌とルネサンスポリフォニーを勉強なさい」と仰ったお言葉が強烈に記憶に残りました。しかし、グレゴリオ聖歌もルネサンスポリフォニーも「それって何??？」という状況。そこで出会ったのが先生がお書きになった「合唱音楽の歴史」でした。とにかく貪るように何度も何度も読みました。しかし、そこにあったのは聞いたことのない作曲家たちの名前と、初めて出会う言葉たち。今、思えばほとんど理解できていなかったと思います。しかし、とにかくそこで紹介されていた未知の作品たちに手当たり次第触れました(楽譜を探したり、聴いたり、演奏したり…)。

そして、1987年に初めて合唱コンクール全国大会の舞台に立った時、そこには審査員として皆川先生がいらっしゃいました。私が演奏したのは、課題曲のパタブス(16世紀)「今日キリストはお生まれになった」と、自由曲には本日も演奏するモンテヴェルディの「愛する女の墓に流す恋人の涙」。そしてその演奏に対して皆川先生が仰ったのは「若い合唱団がルネサンスポリフォニーを勉強し、モンテヴェルディに取り組むのは素晴らしい。しかし、あと10年はモンテヴェルディを勉強なさい」というお言葉でした。そこに至って私の思いは「皆川先生から直接学びたい」という具体的なものとなりました。そして、中世音楽合唱団を見学させていただき、直接ご教授いただいたり、またお手紙のやり取りでもたくさんのお話を教えていただいたりしました。メンスーラ記号、プロポルツィオ、完全テンプスなどの用語も、お手紙のやり取りの中などで懇切丁寧に教えていただきました。世界的な音楽史学者であられながら、どこの馬の骨とも知れない若輩者に熱く接していただいたことで、「いつかは皆川先生に喜んでいただける音楽をしたい」ということが、私の音楽人生の大切な目標になりました。

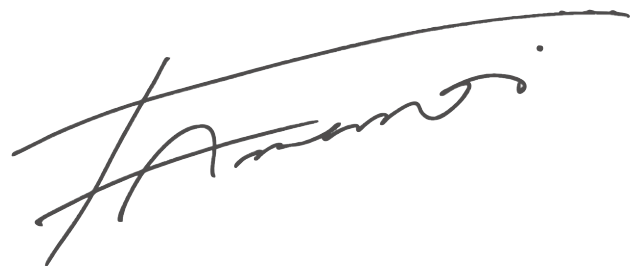
そして、2008年。CANTUS ANIMAEは、ペロタン、マショー、デュファイ、パレストリーナ、モンテヴェルディ、シュッツ、バッハなどの中世からバロックに至る作曲家の作品を(プログラムに楽譜を引用しながら)演奏するレクチャーコンサートを開催しました。当時、80歳を越えて体調が優れない皆川先生でしたが、ご来場くださり「ご立派でした」とのお言葉をくださいました。皆川先生と出会ってから30余年。やっとひとつ、ご恩返しのできたと思えた瞬間でした。

閑話休題。

皆川先生は2020年に帰天なさいましたが、天国の皆川先生への、私そしてCANTUS ANIMAEからの感謝の祈りを捧げさせていただくのが、本日の演奏会です。ビクトリア、パレストリーナ、コストレ、ジャヌカン、モンテヴェルディは当時の演奏スタイルに鑑み少数のアンサンブルで、バッハは通奏低音と共に、そして生で聴く機会の少ないタリスの40声部のモテットを、演奏いたします。

日本にルネサンス以前の音楽を広く紹介され、自らも中世音楽合唱団で指揮・演奏をなされ、その普及に努めてこられた皆川達夫先生を偲びながら、耳を傾けてくださいましたら幸いです。どうぞ最後まで、ごゆっくりとお楽しみください。

音楽監督 雨森文也



Opening

Spem in Alium [40声のモテット]
T. Tallis

1st Stage

Mignonne, allons voir si la Rose
G. Costeley

Le Chant des Oyseaux
C. Janequin

2nd Stage

Officium Defunctorumより
Introitus
Versa est in luctum
T. L. de Victoria

3rd Stage

Lagrima d'amante al sepolcro dell'amataより

1. Incenerite spoglie
3. Darà la notte il sol
6. Dunque, amate reliquie

C. Monteverdi

4th Stage

Sicut cervus
Super flumina Babylonis
Missa Assumpta est Mariaより **Kyrie**
G. P. da Palestrina

5th Stage

Singet dem Herrn ein neues Lied
J. S. Bach

チェロ：西沢央子 オルガン：廣澤麻美

皆川達夫

1927年4月25日生まれ、東京府東京市（現・東京都）出身の西洋音楽学者／合唱指揮者。終戦後に東京大学に入学して音楽理論と作曲法を学び、同大学院へと進む。中世音楽合唱団を結成後、講師の職を経て55年に渡米。コロンビア大学およびニューヨーク大学で中世・ルネサンス音楽史を学ぶ。58年に帰国し、立教大学にて音楽史の講義をもつ。以来、長崎県平戸市・生月島で隠れキリシタンによって口伝えで受け継がれてきた祈りの歌「オラショ」や、オラショとラテン語の聖歌との関わりなどを研究し、『バロック音楽』『洋楽渡来考』などを執筆。また、NHK-FM『バロック音楽のたのしみ』やNHKラジオ第1『音楽の泉』の解説を務め、西洋古楽の普及に貢献。ワインに造形が深いことでも知られる。2020年4月19日に帰天。享年92歳。

Spem in Alium あなたのほかに希望を抱かず [40声のモテット]

トマス・タリスは、16世紀イギリスの作曲家であり、ルネサンス音楽の代表的な人物の一人です。彼は宗教音楽の分野で活躍し、特に宗教合唱曲の作曲家として知られており、長いキャリアの中で多くの宗教曲やモテット、カノンなどを残しました。その作品は美しい旋律と豊かな和声の特徴であり、宗教的な感情を表現する力強さや感動をもっています。

本日演奏するのは、各5声部からなる8群の合唱団で構成される40声の対位法的なモテット「Spem in alium」です。宗教的なテキストに基づいて、神への信仰や希望、神秘的な存在への讃美が表現されています。非常に複雑な作曲技法が駆使されていて、40の声部が独立してポリフォニックに歌い、パッと40声が休止したかと思うと、同時に40声の和音が鳴らされ、集団でホモフォニックに合唱をしていく、そしてまたポリフォニックなパートが始まる、という独特な形式で進行します。この作品は、タリスの他作品と比較しても非常に技巧的であり、豊かな和声や対位法が特徴とされています。彼の創作活動の中でも最も知られた作品、彼の音楽の傑作と評されており、彼の才能と音楽的な革新性を示すものとして、音楽史上で特筆される存在となっています。40声それぞれの美しい旋律と、40声だからこそ聴くことのできる美しく豊かで立体的な演奏をお楽しみください。

(柵橋 亜子)

私はあなたのほかに希望を抱きません
 イスラエルの王よ、
 怒りと慈悲をもって
 全ての罪の苦しみから人々を解放してくださる方、
 主なる神よ、天地の創造主よ、
 卑しい私たちをかえりみてください。

(日本語訳：中村沙耶)

Mignonne, allons voir si la Rose 愛しい人よ、バラを見に行こう

1521年のジョスカン・デ・プレの死より影響力を失っていった宗教音楽に対し、人間の営みへと目が向けられ世俗的なシャンソンが台頭していったルネサンス時代のフランス。詩人ロンサールが、現代でもフランス詩として燦然と輝くこの詩を書いた1545年は、有名になった詩へとこぞって曲が作られていた時代でした。

本曲は1567年に複数人の作曲家による歌曲集の第19集として出版されたものですが、曲集中には同時代を生き、当時から有名なオルランドゥ・ディ・ラッソの曲も含まれています。コストレの曲はしかし曲集の半分を占めており、政治的な要素もあると思われませんが、当時の人気もうかがえるものです。

コストレの作品には、減三度や増六度などを用いた音程の実験的な作風も目立ちますが、本曲では言葉に寄り添って作曲される技法が極まっており、これはルネサンスからバロックへと変遷する中で重要な要素のひとつです。当時のパリで流行していた、言葉の絵画をお楽しみいただければ幸いです。

(源元 正)

愛しい人よ、バラを見に行こう
 今朝咲いたばかりの、
 ドレスのような深紅色の花が、
 深紅色のひだと、
 あなたの顔色にも似たその色を、
 タベになって失っていないかを。

ああ！愛しい人よ、
 花びらはすぐに
 散ってしまうんだ。
 おお、なんと自然はむごいんだ。
 これほどに綺麗な花が、
 ただ朝と晩の間の命だけなんて。

だから、愛しい人よ、私を信じてくれるなら、
 花開き、新緑の瑞々しさが極まる時の
 あなたを摘ませておくれ。
 まさしく、この花のように、
 老いで美しさを曇らせてしまう前に、
 摘ませておくれ。

(日本語訳：佐藤伸行)

Le Chant des Oyseaux 鳥の歌

この曲をご存じの方は、1978年録音のクレマン・ジャヌカン・アンサンブルの名演を一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。皆川達夫先生が発足された中世音楽合唱団の演奏を実際に聴かれた方も多いかもかもしれません。人の声によって鳥の鳴き声がここまで表現できることを知らしめるこの曲は、残っているどの時代のどの演奏を聴いても驚かされます。

音楽家・作曲家が貴族・司教などの特権階級に至ることもあった中、名声は得ながらも重要な地位につくことは生涯なかったジャヌカン。「Le Chant des Oyseaux」は彼が62歳という晩年に作曲したものです。しかし、鳥の鳴き声のひとつひとつは、実はいけ好かないフランス宮廷の個々人の特徴を揶揄したものだという話を聞いてしまうと、かきこまってみようとする意識も急に薄れてきたりはしないのでしょうか。そう考えると、この歌詞と曲に対する認識は、ポリティカーコレクトでありつつも攻めている、ポップでロックなものとして、お国柄的に言うなら非常にエスプリの効いた曲として、お気軽に聴いていただきたい曲となります。

(源元 正)

目を覚ませ、うわの空の心たちよ
愛の神が皆に呼びかける
この5月の始まりには
鳥たちが驚異の業を披露するんだ
不安な気持ちを晴らしたかったら
よくよくお聞きなさい
ほらファリラリロン、可愛い坊や
聞けばきつと楽しくなるさ
最高の季節だよ

そうだなあ、まず聞こえるのは
甘美な音楽だ
威張ったツグミが歌う
クロウタドリもムクドリも一緒にね
まことの声でこう歌う
ティ、ティ、ティ、可愛いおチビちゃん
何て？君、何て言ったの？
パリの小さなホシムクドリ、かわいい坊や
あれは何かしら？あ、あっちいけ、悪い子！
なんてことだ！
時間だ、早く、お説教へ、愛する人よ
坊やは礼儀正しい、賢明でしつけられた人ね
時間だ、さあ飲みに行こう
ギユメットさん、コリネットさん
さあ夫人、ミサへ
聖カケットがコケコケしゃべる
聖トロタンで聖ロバンが
甘いマスクの男に胸の内を明かす
笑って楽しむのが私のおしゃべり
誰でもつられて楽しくなるさ

素敵な森のナイチンゲールは
歌声を響かせる
退屈な気持ちを晴らしたかったら
君たちも歌うんだ
フリャン、フリャン……
コキ、コキ……
キララ……フィティ……
トゥルル、クルル、ヴルル、フルル……
後悔、涙そして心配はもうおしまい
5月がそう言っているのさ

ひっこみな、カッコウの旦那
お呼びでないぞ
君たちはみんなひどく縛られている
なぜなら君たちは裏切り者だから
コキュ、コキュ……
呼ばれてもいないのに入り込んで
みんなの巣に卵を産み付ける裏切り者
目を覚ませ、うわの空の心たちよ
愛の神が皆に呼びかける

(日本語訳：佐藤伸行)

Officium Defunctorum (死者のための聖務曲集) より

Introitus 入祭唱

Versa est in luctum わたしのハープは悲しみの調べに

トマス・ルイス・デ・ビクトリアは、後期ルネサンスならびに「太陽の沈まない国」スペイン黄金期を代表する作曲家の一人で、パレストリーナと並び、教会音楽の大家として知られています。ローマ学院の楽長やイエズス会の司祭としてローマで活躍したのち、1586年にスペインに帰国。デスカルサス・レアレス女子修道会に加わり、スペイン王フェリペ2世の妹である皇太后マリアに仕えました。

神秘的な雰囲気は一貫しつつも感情的な激しさを含んだ宗教曲を多く残しましたが、一方で当時の作曲家としては珍しく世俗曲を一曲も残さなかったとされており、非常に敬虔な聖職者でもあったことがうかがえます。また、同時代の作曲家と比較すると、複雑な対位法は避け、ホモフォニックな旋律を好む傾向ですが、リズムや旋律、不協和音の使い方は自由で、表情豊かな作品が多いです。さらに、当時としては実験的な要素も積極的に取り入れており、バロック音楽の先駆けであるヴェネツィア楽派の二重合唱や、器楽伴奏付きの作品も残しています。

今回演奏される『Officium Defunctorum』は、1603年に亡くなった皇太后マリアの葬礼のために作曲されました。厳かな雰囲気を保ちながら、死別の深い悲しみや神のもとへ赴く高揚感をも感じさせるような「Introitus」「Versa est in luctum」の2曲をどうぞお聴きください。

(有我 由輝)

Introitus

主よ、
永遠の安息を彼らにお与えください。
そして不断の光が彼らを包みますように。
神よ、
シオンではあなたのための讃歌が歌われ、
エルサレムではあなたに誓いがたてられるでしょう。
どうかわたしの祈りをお聞きください。
すべての子らの肉体があなたのもとへとかえれますように。

Versa est in luctum

わたしのハープは悲しみの調べに、
そしてオルガンは嘆きの声に変えられました。
主よ、
わたしをお許しください。
わたしの日々は空しいものですから。

(日本語訳：建川穂波)

Lagrima d'amante al sepolcro dell'amata (愛する女の墓に流す恋人の涙) より

1. Incenerite spoglie 灰となった亡骸は
 3. Darà la notte il sol 夜には太陽が輝き
 6. Dunque, amate reliquie さて、愛する人の墓よ

モンテヴェルディがマドリガーレ第1巻を出版したのは、1587年、彼が20歳の時のこと。その後、人生の50年をかけて8巻の曲集を出版しました(第9巻は死後に出版)。第1巻から第4巻までがルネサンス様式、第5巻から通奏低音付きのバロック様式に変化しており、彼の作風の中にそのまま音楽史の歩みが見られます。まさしく、ルネサンスの幕を閉じバロックの扉を開いた作曲家なのです。

「Lagrima d'amante al sepolcro dell'amata」は第6巻に収められた6曲からなるマドリガーレで、作曲されたのは1608年、ベネツィアでの職に就く前のマントヴァ時代とされています。その少し前に最愛の妻クラウディアと、同じく第6巻収録「Lamento d'Arianna (アリアンナの嘆き)」でアリアンナ役を演じた人気歌手で親友のカテリーナを相次いで亡くしています。愛しいニンフの恋人(コリンナ)を亡くし、その墓の傍らで涙を流す羊飼(グラウコス)の哀歌です。“ahi lasso (ああ悲しい)”という痛切な叫び。ルネサンス時代に比べて、より歌詞に対するドラマチックな表現がなされています。

曲集の出版は1614年。今日も続くベネツィア・カーニバルでは、美しく飾り立てられたゴンドラで色とりどりの衣装を着た楽人たちが音楽を奏でていました。水の都は東方貿易による栄華を迎えていたのです。サンマルコ大聖堂の楽長を務めていたモンテヴェルディの、色彩豊かでドラマチックなマドリガーレを、どうぞお聴きください。

(芦田 能美)

1. Incenerite spoglie

灰となった亡骸は 卑しい墓の中に
 あなたは私の美しい太陽でした

ああ 悲しい
 私にはその墓にすがって伏せることしかできません

あなたが墓に閉じ込められたように
 あなたを想う私の心は胸の中に閉じ込められてしまいました

夜も昼も 悲しみの涙と
 怒りの炎で苦しみ生きるグラウコス

3. Darà la notte il sol

夜には太陽が輝き
 昼には月の女神が輝く
 グラウコスの前で

口づけし賛美することはできなくなってしまいました
 愛の巣だったその人が
 硬い墓になってしまったから

深い嘆きと涙だけでは
 獣や天は彼に慰めを与えてはくれなんでしょう

6. Dunque, amate reliquie

さて、愛する人の墓よ
 この涙の海がうるわしあなたに
 光を与えてくれないだろうか
 冷たい石の下にいるあなたに

見よ 苦しむグラウコスを

海と天にコリンナの名を響かせ
 風や大地は絶えず呼びかける

ああ コリンナ
 ああ 死んでしまった
 ああなんと 墓の中に

涙にまさる言葉はない
 愛する人よ

天がグラウコスに安らぎを与えるように
 グラウコスはあなたの眠る聖なる墓に祈る

(日本語訳：乙坂栗里)

Sicut cervus 潤れた谷の鹿が水を求めるように

Super flumina Babylonis バビロンの河のほとり

Missa Assumpta est Maria (マリア被昇天のミサ) より Kyrie 憐れみの賛歌

16世紀中期のイタリア音楽、特に宗教曲の分野は、フランドル(今のベルギーあたり)出身の作曲家が推進していました。デュファイ、オケゲム、ジョスカン、イザーク……彼らのポリフォニー様式の重厚な宗教曲にイタリア人は熱狂し、イタリア各地の聖堂や宮廷礼拝堂で広く歌われていました。しかし、次第にポリフォニーが複雑となり言葉が聞こえにくくなり、世俗的な歌詞や旋律も多く含むようになったため、1545年から1563年にかけて行われたトリエント公会議にて、ポリフォニーの簡素化や世俗的要素の排除が定められました。ジョヴァンニ・ピエルルイーゼ・ダ・パレストリーナは、そのような時代においてフランドル派の豊かなポリフォニー様式を継承しつつ、イタリア風の明快な書法や甘美な和声によって、複雑化したポリフォニーを中和し、以降のバロック時代へとつながるパレストリーナ様式を完成させました。パレストリーナは教会音楽の父と呼ばれ、その生涯で700以上の曲を残しました。

「Sicut cervus」では、パレストリーナカーブと呼ばれる柔らかな上昇音階や明瞭な和声が繰り返し用いられています。歌詞は詩篇42の冒頭からとられています。「潤れた谷の鹿が水を求めるように」魂は神を求めている。この詩がどのような状況で歌われたかは定かではありませんが、バビロン捕囚の際の嘆きを読んだものという説が有力です。バビロン捕囚とは、紀元前1世紀ごろ、新バビロニアによって征服されたユダヤ王国の民がバビロンに連行され捕囚となった史実をいいます。短い一節ではありますが、異教の地で神を求める魂の言葉と考えると、見え方が違ってくるのではないのでしょうか。「Super flumina Babylonis」は、同じくバビロン捕囚をテーマとしており、下降する主旋律が次第に弛緩しつつ緩やかに重なり、滔々と流れるバビロンの河の様子が描かれるとともに、厳しい和声が散りばめられ、故郷を奪われた人々の嘆きや怒りを表現しています。最後に、『Missa Assumpta est Maria』は、聖母マリアが栄光に包まれて天国へ挙げられたことを祝っています。自作で同名のモテット内のモチーフを用いたパロディ・ミサという形式であり、更にもそのモテットは作者不詳のグレゴリオ聖歌を元としており、例えば「Kyrie」の冒頭の旋律にモチーフが用いられています。精密で無駄のない作曲技法により、柔らかく伸びやかな旋律が重なり合い、透明で解放感で溢れる響きとなっています。

(本間 啓太郎)

Sicut cervus

潤れた谷の鹿が水を求めるように
神よ、私の魂はあなたを求める。

Super flumina Babylonis

バビロンの河のほとりに座り、
私たちは涙を流した。
シオン、あなたを思い出しながら。
ほとりにある柳の木々に、私たちは豎琴を立てかけた。

Kyrie

主よ、憐れんで下さい。
キリスト、憐れんで下さい。
主よ、憐れんで下さい。

(日本語訳：本間啓太郎)

Singet dem Herrn ein neues Lied 主に向かって新しい歌を歌え

鍵盤楽器や管弦楽などさまざまな分野で名を残し「音楽の父」と名高いバッハ。声楽の分野において、彼は『ロ短調ミサ』や約250曲にも及ぶ教会カンタータの作曲家として知られています。今回の演奏会では、バッハが手掛けた数少ないモテットから「Singet dem Herrn ein neues Lied」を取り上げます。

原義的な「モテット」とは中世フランス語で「言葉」を意味する“mot”に由来する、ルネサンス期にかけて発展した声楽曲の様式を指します。宗教的なテキストの「モテット」は、専ら教会での礼拝や葬儀のために作曲されてきました。バッハのライプツィヒ時代において教会礼拝の役割は教会カンタータに取って代わられてしまったものの、葬儀や追悼式の折にモテットが作曲・演奏されています。本作品は1926年6月から1927年4月の期間の作品と推測されていますが、残念なことに、その詳細な用途は明らかになっていません。

モテット全体は3部構成となっています。第1部では4分音符と16分音符で表現されるモチーフの絡まり合いや後半のフーガ部分を通して、第2部の中間部分へと向かいます。この中間部分において、バッハはルター派の伝統的なコラールと作者不明の宗教詩を採用しました。コラールと対となったテキストは、内なる敬虔な信仰心を際立たせているようにも感じられます。第3部に入ると高揚感のある曲調で呼びかけと応答が繰り返され、4声フーガへと止まることなく集約されたのち、高らかな“Halleluja”が曲を締め括ります。

(久保田 凱斗)

主に向かって新しい歌を歌え、
 聖なる集いの中で主を讃美しよう。
 イスラエルの民は創造主を喜び祝え。
 シオンの子どもたちはその王に喜び、
 太鼓と豎琴を奏で、
 踊りによってその御名を讃美せよ。

(コラール)

父が幼子を憐れむように、
 主は私たち全てを憐れんでくださり、
 私たちは子供のよう、純粋に主を畏れる。
 彼は造られたものの乏しさを知っておられ、
 神は私たちがただの塵にすぎないということを、
 熊手で集められた草、
 ただの花や落ち葉に等しい存在であることを知っておられる。
 風が吹くだけでその存在はなくなってしまう。
 人もそのように過ぎ去るもの、
 その終わりは、すぐそこにある。

(アリア)

神よ、いつも私たちをあなたの下に受け入れてください。
 あなたなしには、私たちはなにも成すことができないのです。
 だから、いつも私たちの守りや光となっていてください、
 私たちの希望を欺くことのないように。
 堅実に、ただひたすらに
 あなたとあなたの恩寵を頼りにする者は幸いです。

その御業のうちに、主を誉め讃えよ、
 その大いなる栄光のうちに、主を誉め讃えよ！
 息する全てのものは、主を誉め讃えよ、
 ハレルヤ！

(日本語訳：中村沙耶)